

第5章 実現方策

1 事業の進め方

事業の推進にあたっては、安全に関する不安感の払拭と住民参加に配慮して進めていく。

本市を代表する貴重な文化・観光資源として「石の里・大谷」を捉え、住民、市民の意識を変革していくことが肝要である。住民との対話や集会を通じて住民意識を高め、事業化に結び付けていく必要がある。

更に、大谷石産業との連携はもちろん、周辺の農林業産業や飲食店、まちなかを含めた広い視野からネットワークを形成し、大谷観光を推進する体制を作る必要がある。

安全対策については、関係機関や研究機関と連携し、安全基準の作成に向け研究に着手する必要がある。

また、住民意識の醸成や安全対策といった長期的な視点から取り組むべきものと並行し、目に見える形で事業を興していくことも必要である。

大谷熟成ブランドの創出や下野七福神を活用した観光ルートの創出など、ソフト的な取り組みでインパクトのあるものを事業化し、流れを作る必要がある。

【行政機関のサポート】

- ・大谷の活性化に係る事業について、総合的な連絡、調整機能をもつセクションを検討し、円滑な事業の推進をサポートする体制を整備する。
- ・市街化調整区域に係る観光開発や景観保全に係る考え方を整理し、規制の緩和や手順の簡素化などを図れるよう検討する。

2 施策事業の実施主体とスケジュール

事業名		実施主体			実施時期		
		市	住民	民間	短期	中期	長期
基本方針							
	大谷観光指定地区の設定						
	動線計画によるルート設定						
	客観的な安全評価基準の作成に係る研究				—		
	公共的施設に係る安全対策の基準作成に係る研究				—		
	開発申請時における安全評価の審査システムなどの研究				—		
1. 「石の里・大谷」修景・開発事業の推進							
	岩出しなどの美観修景事業				—	—	
	奇岩景勝等の保全活用，知名度の向上				—	—	
	景観協定に向けた住民協議の場づくり						
	景観形成に係る補助，支援策の検討						
	採石場跡の観光利用の研究				—		
2. 「石の里・大谷」の再生に向けた住民意識の向上							
	大谷再発見事業の推進						
	住民による観光ボランティアの育成						
	新しい大谷石の活用方法の創出				—	—	
	大谷石細工，華石絵などの大谷石体験事業の創出				—		
3. 芸術・アートを基軸とする文化事業の推進							
	アトリエ，練習場の提供等によるアーティストの誘導					—	
	パフォーマンススペースの整備					—	
	ワークショップなどの芸術体験事業の誘導						
	芸術・文化イベントの開催				—	—	
4. グルメ志向の大谷ブランドの創出							
	地下熟成食材を活用したレシピ開発						
	地下熟成機能を活用した高付加価値型倉庫事業の創出				—		
	果物を活用した二次加工製品の開発誘導					—	
	大谷ブランドに係る研究会の設置						
5. アウトドアレクリエーションの充実強化							
	ハイキングルートの整備				—		
	森林公園，サイクリングターミナルの機能強化						
	体験事業メニューのわかりやすい情報発信						
6. 観光ネットワークの構築							
	下野七福神の観光利用						
	大谷七名山の創出						
	統一シンボルやデザインによる案内誘導方式の確立					—	
	広域観光ネットワークの拠点機能の整備					—	
7. その他の施策事業							
	多気城跡をめぐるストーリーの発掘						
	特色あるイベントの充実強化					—	
	撮影誘致の強化						
	まちなか，農林公園と連携した大谷の情報発信				—		

1 趣 旨

「都市観光振興プラン」及び「大谷観光推進基本計画」の策定のため、「都市観光研究会」及び「大谷観光推進基本計画策定懇談会」への情報提供、並びに提言事項の庁内調整を図るとともに、各観光計画案の検討を行う。

2 検討事項

(1) 都市観光振興プランの策定

- ・ 都市観光の振興に係る課題及び推進方策の検討
- ・ 都市観光に係る事業プランの検討

(2) 大谷観光推進基本計画の策定

- ・ 大谷観光の推進に係る課題及び推進方策の検討
- ・ 大谷観光に係る事業プランの検討

3 構 成

(1) 観光計画策定委員会 [別表1参照]

- ・ 委員長 商工部長
- ・ 副委員長 商工部次長
- ・ 委 員 観光計画策定関係部課長

(2) 観光計画策定委員会担当課長会議 [別表2参照]

- ・ 委員長 商工部次長
- ・ 副委員長 商業観光課長
- ・ 担当課長 観光計画策定関係課長

(3) 日 程

平成 15 年 11 月から平成 16 年 3 月

(4) 座 長

各委員長が進行する。

4 スケジュール

日 程	策定委員会	内 容
11 / 27 10:30 ~	第 1 回 担当課長会議	・ 都市観光プラン及び大谷観光計画の策定スケジュール ・ 都市観光プランの概要報告，内容検討 ・ 大谷観光振興の考え方，計画策定方針の説明，意見交換
2 / 6 13:00 ~	第 2 回 担当課長会議	・ 都市観光研究会検討経過の報告，振興プラン素案の検討 ・ 大谷観光の現状と課題，大谷観光の方向性について ・ 関係部局の関連課題の抽出，官民協働の考え方 など
2 / 23 10:00 ~	第 1 回 策定委員会	・ 都市観光振興プラン素案の検討 ・ 大谷観光推進基本計画の骨子案の検討 など
3 / 18 10:00 ~	第 2 回 策定委員会	・ 各観光計画への提言内容の報告 ・ 各観光計画素案の検討 ・ 各観光計画推進にあたっての考え方 など

別表 1] 観光計画策定委員会委員名簿 : 委員長 : 副委員長		
NO	氏名	役職名
1	柳田 輝男	商工部長
2	小平 良長	総合政策部長
3	森 賢一郎	環境部長
4	永岡 重信	農務部長
5	木村 保弘	都市開発部長
6	伊藤 文雄	教育次長
7	沼尾 博行	商工部次長
8	桜井 敬朔	商業観光課長
9	横松 薫	政策審議室長
10	矢古宇哲男	都心部活性化推進室長
11	石川啓太郎	工業課長
12	大岡 幸雄	農政課長
13	岩本 享一	廃棄物対策課長
14	加藤 岩男	農林振興課長
15	福田 幹雄	クリーンセンター所長
16	栗田 健一	都市計画課長
17	桜井 英男	都市再開発課長
18	窪井 秀治	建築指導課長
19	寺内 栄	公園緑地課長
20	北條 和久	文化課長
21	数度 幸一	スポーツ振興課長
22	浦野 孝夫	商業観光課主幹(観光コンベンション協会事務局長)

[別表 2] 観光計画策定委員会担当課長会議名簿 : 委員長 : 副委員長

NO	氏名	役職名
1	沼尾 博行	商工部次長
2	桜井 敬朔	商業観光課長
3	横松 薫	政策審議室長
4	矢古宇哲男	都心部活性化推進室長
5	石川啓太郎	工業課長
6	岩本 享一	廃棄物対策課長
7	福田 幹雄	クリーンセンター所長
8	大岡 幸雄	農政課長
9	加藤 岩男	農林振興課長
10	栗田 健一	都市計画課長
11	桜井 英男	都市再開発課長
12	窪井 秀治	建築指導課長
13	寺内 栄	公園緑地課長
14	北條 和久	文化課長
15	数度 幸一	スポーツ振興課長
16	浦野 孝夫	商業観光課主幹(観光コンベンション協会事務局長)

役 職	氏 名	所 属	備 考
会 長	森 本 章 倫	宇都宮大学工学部助教授	都市観光研究会会長
副会長	小野口順久	大谷石研究会	理事長
委 員	阿 部 英 夫	城山地区連合自治会	副会長
"	池 田 克 雄	大谷創生協議会	監 事
"	鈴 木 成 昭	ジャズ協会事務局長	公募委員
"	竹澤奈穂美	宇都宮短期大学事務局	公募委員
"	中 根 裕	(株)ツーリズム・マーケティング 研究所主席研究員	作新学院大学講師 県リゾートアドバイザー
"	林 香 君	文星芸術大学助教授	陶芸家
アドバイザー	清 木 隆 文	宇都宮大学工学部助教授	岩盤工学

検討経過

日 時	会 議	内 容
H16.1.28	第 1 回懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大谷観光の現状と課題について ・ 大谷観光推進の施策体系について
H16.2.13	第 2 回懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大谷観光推進の基本方針について ・ 大谷観光推進の主要事業について ・ 今後の大谷観光の進め方について ・ 地下空間の安全評価について
H16.3.2	第 3 回懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大谷観光指定地区の考え方について ・ 提言書案の検討

事務局

所 属	役職等	氏 名	備 考
商工部商業観光課	課 長	桜 井 敬 朔	
"	課長補佐	和 気 恒 光	
"	観光係長	斉藤由美子	
"	総括主査	松 本 邦 夫	

「大谷観光推進基本計画」の概要

【背景・趣旨】

【観光需要】
市北西部の自然環境を活かした観光需要の高まりと、大谷の観光拠点機能の充実に求められている

【名勝指定】
奇岩景勝等の名勝指定が検討される中、これを好機に大谷再生に資する観光振興のあり方が求められている

【機運の醸成】
大谷石研究会、再生委員会等の住民主導による大谷再生の動きが機運の中、連携した観光開発のあり方が必要

本計画を契機に大谷の産業構造の転換を促し、新しい時代に適応した観光振興を図っていくことを目指すものとする。

また、事業化にあたっては住民自らが参加し、推進していく仕組みを形成することを基本とする。

なお、本計画は、都市観光振興プランの地域別計画の一つとして位置づけする。

1 計画地区全体の状況

- ・H14の大谷石の出荷量は年間4万t（全盛期の1/20）
- ・観光入込数は約120万人（H8は約180万人）
- ・自郡住民の「大谷」の認知度：18.3%（「餃子」は85.3%）
- ・都市計画関連法規の環境変化

3 基本方針

- コンセプト・・「石の里・大谷」
- ゾーニング
- 「大谷観光指定地区」の設定
 - ・名勝指定が検討されている景観や文化財、県立自然公園などの貴重な景観、自然の保全
 - ・エリアの特性に応じた適切な観光施設機能の誘導
- 【大谷】・芸術文化体験、産業体験、観光交流機能など
- 【多気】・歴史の景観としての茶店機能など
- 【古賀志】・野外活動、農業体験、宿泊機能など
- 【全体】・飲食、物販機能など
- 動線計画
 - ① 大谷・多気エリア
 - ・・・散策周遊ルート ⇒ 「大谷発見散策ルート」
 - ② 大谷・多気・古賀志エリア
 - ・・・自転車周遊ルート ⇒ 「サイクル大谷ルート」
 - ③ 計画対象エリア全体
 - ・・・自動車周遊ルート ⇒ 「大谷ビッグアップルート」
 - ④ 広域ルートの検討
 - ・・・公共交通機関の誘致、広域連携事業の強化など
- ターゲット
 - ① 首都圏住民
 - ② 県内周遊客（日光、鬼怒川）
 - ③ 住民（市民、県民）
- 観光ルートの安全確保
 - ・集客施設の開発許可に係る安全評価基準の研究
 - ・埋め戻しに係る事業化の研究など

4 施策事業

推進方策	想定事業
I 石の里修景・開発事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・石の里にふさわしい景観の形成事業 ・奇岩景勝等の保全活用、知名度の向上 ・探石場跡や旧大谷公会堂等の観光活用の研究
II 石の里・大谷の再生に向けた住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷再発見事業の推進 ・住民による観光ボランティアの育成 ・新しい大谷石の活用方法の創出 など
III 芸術・アートを基軸とする文化事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アートリエ、練習場の提供によるアーティストの誘導 ・パフォーミングスペースの整備 ・ワークショップなどの芸術体験事業の誘導 など
IV グルメ志向の大谷ブランドの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・地下熟成食材や地元産物を活用したレシピ開発 ・地下熟成機能を活用した倉庫事業の開発誘導 ・大谷ブランドの研究、事業推進母体の創出 など
V アウトドア・レクリエーション事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀志山、多気山などのハイキングルートの整備 ・森林公園、サイクリングターミナルの機能強化 ・体験事業メニューのわかりやすい情報発信 など
VI 観光ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・下野七福神、大谷七名山等による周遊機会の創出 ・計画地区の統一シンボルや案内誘導方式の確立 ・広域観光ネットワークの拠点機能の整備 など
VII その他	<ul style="list-style-type: none"> ・多気城跡をめぐるストーリーの発掘、観光活用 ・特色あるイベントの充実強化や露店誘致の強化 ・まちなか、農林公園に連携した大谷の情報発信など

5 実現方策

- 事業スケジューリング
 - 事業の目的、重要性、熟度から優先順位付け
 - ⇒短期（～3y）、中期（～6y）、長期（～10y）
- 事業主体
 - 民間、住民、行政の役割分担と協働の考え方
- 関連行政機関、部署の連携
 - 大谷観光推進に係る行政機関、市内関係部局との連絡調整機能の強化

<p>大谷</p> <p>【課題】 特異な景観と歴史遺産のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石の里」としての修景や賑わいの再生、イメージ回数が急務 ・芸術、アートの場として需要が高まっており、その活用策が必要 ・陥没事故による安全性に係るメンテナンスの払拭 	<p>多気</p> <p>自然林に包まれた不動尊と宇都宮氏ゆかりの山城跡</p> <p>【課題】 ・門前の手串や団子の茶屋を活かした受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然記念物の自然林や山城の遺構の保全と両立した観光活用の 	<p>古賀志</p> <p>スポーツ、自然探勝、観光農園等が集積するレクリエーションエリア</p> <p>【課題】 ・バ特がユースの誘導案内機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ体験事業の情報発信の強化 ・休憩、宿泊機能の強化 ・公共交通によるアクセスが低い 	<p>周辺部</p> <p>宇都宮IC、日光街道、農林公園、温泉等を有する北の玄関口</p> <p>【課題】 ・大谷地区と連携した集客強化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鞍掛山や男抱山などの有効活用 <p>【計画地区全体の課題】 ・「食」資源の開発 ・回遊性強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティの向上
---	--	--	---

2 エリア特性と課題

